

男女共同参画・若手支援ワーキンググループ企画ワークショップ P 取り組み事例とグッドプラクティス

Ruth Hagengruber (ドイツ・Universität Paderborn)
呉秀瑾 (台湾・国立中正大学)
司会: 村上祐子

男女共同参画・若手支援ワーキンググループでは隔年で男女共同参画と若手支援を交互にテーマにしたワークショップを開催している。今回はドイツと台湾から提題者をお招きして、ヨーロッパおよび台湾における女性哲学者の歴史および支援の現状についてお話しいただく。また提題を元に、グループワークの形式で議論を進めていく時間を多めにとる予定である。ぜひご参加の上で、積極的に議論に参加していただきたい。

Hagengruber 先生は、女性哲学者・科学者の歴史をご専門として、女性哲学者・科学者センター (<https://historyofwomenphilosophers.org/>) の所長を務めている。女性哲学者・科学者センターでは 25 名の所員を擁し、デジタル人文学のアプローチも用いて科学・思想の発展への女性の寄与をまとめている。さらに、クロアチア・イタリアをはじめとするヨーロッパ域内各国およびアメリカ等、学術的風土が異なるにもかかわらず、女性哲学者支援の取り組みに関しては国際連携を進めている。

今回はこのような取り組みについてお話をいただく予定である。

呉秀瑾先生は倫理学、応用倫理、フェミニスト理論をご専門としている。業績には台湾帝国大学で哲学の教鞭をとった女性哲学者である林素琴の御研究も含まれている。議論の中で、同じアジアでありながら、台湾と日本をここまで分けることになった歴史的経緯と社会的要素を洗い出していく。